

第71回三島市美術展 入賞者一覧

【日本画の部】

賞	目録No.	氏名	題名	サイズ
市長賞	3	和田 としこ	梅雨あけ	F50号
議長賞	2	中嶋 孝子	22.1.6 珍し積雪	6号
教育長賞	4	野田 京子	冬色	20号
奨励賞	1	山本 久実	鼓動	50号
奨励賞	9	古屋 恵	一期一会	F6号
奨励賞	10	雨宮 里美	苔むす森	8号

〔審査員講評〕

今回は全体的に日本画の精神性が良く表されており、心を惹かれたすばらしい作品が多く、少々まよわされました。

市長賞の「梅雨あけ」は大画面の立葵と思われる花の表現であるが、心に響く様を作家が素直にまとめられていた。

議長賞は、雪景色の雰囲気がとてもよく表現されていた。ただし、タイトルが少々長いのが気になった所です。

教育長賞は、ずばり冬の情緒がよく表現され素晴らしいものになったが、インパクトが少々足りないのが難点でした。

奨励賞の「一期一会」は構成力と暖色と寒色の使い分けが画面を引き立てていた。

審査員 大場 茂之、松山 英雄

【洋画の部】

賞	目録No.	氏名	題名	サイズ、技法
市長賞	9	安藤 幸子	Paradise	F50号、油彩
議長賞	51	小野 登志子	黒いともだち	F50号、油彩
教育長賞	5	金谷 弘子	凜として	P20号、ミクストメディア
奨励賞	20	渡辺 美幸	昼下がりに	103cm×72.8cm、パステル
奨励賞	24	杉山 記子	ローズガーデン	103cm×72.8cm、パステル
奨励賞	48	栗田 隆	対島の滝	40cm×55cm、木版
奨励賞	49	横川 章子	深秋	F10号、アクリル
奨励賞	53	大島 正年	天の川	50号、水性ペン

〔審査員講評〕

今回は大きな作品、目立つ作品が残り、画面の中で技術を遺憾なく発揮し、何を表現したいのか、訴えるものが明確でスッキリとした作品が評価されました。他には、発想力と根気を融合させた作品や、同じ色合いでも少しずつ変化させるきめ細かい仕事が美しい作品などがありました。

小さい画面の中でも写真に撮られたようなものでなく、構図や色合い、自分なりの発想力、表現などに着目したらもっと面白い作品が作られると思うので、概念を壊すべく大作にも挑戦してもらいたいと思いました。

審査員 宇城 正紀、塩川 晴美

【写真の部】

賞	目録No.	氏名	題名
市長賞	53	渡邊 修一郎	弾ける夏
議長賞	16	西川 寿子	陽春のデュエット
教育長賞	15	岩谷 夕起子	霧の中の少年
奨励賞	12	望月 正誼	春の詩
奨励賞	23	八木 憲一	躍動する少女A
奨励賞	24	田村 全子	里の春
奨励賞	33	遠藤 精次	祈り
奨励賞	38	山田 明彦	信号機

〔審査員講評〕

市長賞の作品は子どもや雲などのバランスが良く、造形的センスが優れている。議長賞の作品は子どもの遊ぶ様が素直に表現されている。教育長賞の作品は霧と子どもの遊ぶイメージがマッチし、雰囲気良く表現されている。

写真にはたくさんの表現方法があるので、自分に合った方法でそれぞれの思想や感情などを表現してほしい。今回の作品は着物の帯の色を信号機に例えた写真や、子どもの祈る流しびな、躍動する少女、組で表現した山里の春など、全体的に作者のカメラアイやストーリー性の感じられる作品が多く、とても楽しく拝見させていただきました。

審査員 松野 崇、村上 益男

【書道の部】

賞	目録No.	氏名	題名
市長賞	3	佐藤 紫香	杜甫詩
議長賞	4	麻生 菁勝	大海の磯
教育長賞	2	岡田 周美	玉柳
奨励賞	5	笹津 治子	花開蝶自来
奨励賞	7	増間 五峰	李白詩

〔審査員講評〕

市長賞：線の強さが表現され白が効果的に響いたすっきりとした作品である。

議長賞：伸びやかな線で作品空間をしっかりとつかんでいる。

教育長賞：爽快さが心地良い作品で素直に書ききっている。

奨励賞「花開蝶自来」：骨力のある線で基本に忠実な運筆が作品を大きく見せている。

奨励賞「李白詩」：墨色に留意し雄大な明るい作品である。

審査員 鈴木 玉翠、増田 文杏

【総合美術・工芸の部】

賞	目録No.	氏名	題名	技法
市長賞	14	森田 一枝	羅針盤	パッチワーク、タペストリー
議長賞	11	大塚 尚敏	十一面観世音菩薩	木工
教育長賞	27	杉本 穂	東海道五拾三次五拾五景	墨絵
奨励賞	15	後藤 和子	涅槃図	水彩(仏画)
奨励賞	18	高林 哲也	夢中	マスキングテープアート

〔審査員講評〕

全体的に大変多様な作風の出品作品です。材料・技法・テーマと、作者各々が工夫を凝らし時間と労力を費やしたエネルギーに満ちた展示空間となっています。審査中も絶えず圧倒されていました。大きさ問わずこだわりを感じましたが、中でも完成度が高くメッセージ性の強い作品に高い評価が集まりました。パッチワークキルトには高度な計画と技術、菩薩には緻密な作業と祈り、五拾三次にはコロナ禍で失われた旅の時間を垣間見ました。また奨励賞のお二人それぞれの家族への想いや命への想いを感じました。

受賞にいたらなかった皆様の作品も甲乙つけ難いものがありました。また新たな、まだ見たことのない創作を期待します。

審査員 鈴木 健司、村上 直子